



学校だより

令和 8 年 3 月 吉日
上越市立有田小学校
校長 野田 晃

言葉の力

令和7年度が終わります。皆様のご支援ご協力により、一人一人の子どもたちにとって、学び多き1年となりました。また、学校、保護者、地域がそれぞれの役割を果たし、協力し合うことにより、充実した教育活動を行うことができました。職員一同を代表し、心から感謝申し上げます。

「自分もみんなも大切にする子」を合言葉に、子どもと教職員が同じ理想を共有して学校づくりに取り組んできました。1年生から6年生が一生懸命に取り組んだ「あいさつ運動」。笑顔で「おはようございます!」「さようなら!」と挨拶する声が響き渡るようになりました。「一緒に遊ぼう」「いいよ」「大丈夫?」と友達同士で優しい言葉をかけ合う声もたくさん聞こえるようになりました。「〇〇さんて、すごいね」「上手だね」「いつも頑張っているね」と友達に伝えている姿もたくさん見られるようになりました。そして、自然に「ありがとう」「ありがとうございます」と友達や先生、保護者や地域の方々に伝えている姿も見られるようになりました。

「優しい子どもがたくさん育ってきたなあ」と感動します。「温かい学校になったなあ」と実感します。皆様と共に「自分もみんなも大切にする子」を合言葉にして学校づくりに取り組むことができてよかったと心から思います。これもひとえに、保護者や地域の皆様が学校を信頼し、ご家庭でも地域でも、「自分もみんなも大切にする子」の育成に向かって取り組んでいただけたお陰です。本当にありがとうございました。

「言葉には力がある」と、私は信じています。

子どもの頃、水泳大会やマラソン大会で、親や友人から「がんばれ!」と言われたとき、心の底から力が沸き上がってきたことを覚えています。かぜを引いて高熱が続いているとき、「大丈夫だよ」「もうすぐ楽になるから」という言葉で苦しさが和らいだことも覚えています。「言葉の力」によって、私たちは元気が出たり頑張れたりします。優しくなれたり勇気が出たりもします。反対に、嫌な気持ちになったり自信を無くしたりもします。よい言葉も悪い言葉も、私たちの心に直接に働き、私たちの感情を揺さぶり、自分の行動を左右するものです。だから、これからも有田小学校は「自分もみんなも大切にする」ことを第一に、自分にも友達にも「優しい言葉」「温かい言葉」を伝えてほしいと願っています。否定する言葉ではなく肯定する言葉を、絶望する言葉ではなく希望がもてる言葉を、です。そして、誰もが安心して「自分のよさ」を生かすことができるように。

社会が大きく変わろうとしています。戦争、AI、超高齢化社会、自然災害多発等、大人ですら不安な気持ちにさせます。しかし、どんな困難なことがあっても苦しい時でも、「言葉の力」を信じて、有田小で学んだ「ポジティブな言葉」「人と仲良くなる言葉」「慈愛の言葉」で乗り越え、素晴らしい人生を歩んでほしいと、切に願っています。